

平成 26 年 8 月 18 日 西成区区政会議における市長スピーチについて

大阪市特別顧問（西成特区構想担当） 鈴木亘

#### 区政会議

- ・ 区役所、市役所各局などの関係機関、地元地域の住民、労働者、支援者や諸施設で作る会議体で議論を行う
- ・ 日雇労働市場はなくさない。また、あいりん地域以外への移転は行わない。
- ・ 社会医療センター、市営萩之茶屋住宅も、あいりん地域内で移転させる。あいりん総合センターについては、高度成長時代に作られた現在の規模は必要はなく、時代の変遷とともに規模の縮小は必要である。
- ・ 議論の場は完全なオープン、透明な会議運営を行う
- ・ あいりん総合センターの問題は、歴代の市長・知事が解決できなかった問題であったが、僕と松井知事で一定の道筋をつける。僕が市長である間しかできないと思っている。今年度中に必ず方向性を決めて発表する。道筋さえ決めれば実行する。真っ白なところから議論してもらうのは大変なので、たたき台、総合センターについて議論するのに必要な材料、複数案を提案し議論してもらう。
- ・ 高度成長期を支えてこられた日雇労働者 OB のみなさんが困難な状況にあることも認識している。彼らに対するサポートは、地域のみなさんと行政がタッグをくんでやっていく。
- ・ シェルター入札不調の件は、建設経費が上がっていることが原因であり、これは全国的な問題。（センター建て替えに伴って必要性が増す日雇労働者やホームレスの方々の居場所づくりの機能を持たせるという当初計画の質が落ちないように）きっちり予算をプラスアルファするようにと指示をだす。ただし予算について議会の承認が得られればだが。シェルターの居場所づくり機能は重要と思っている。
- ・ 会議体の議論にあたっては、地元の意見を最優先し、行政による上からの勝手な押し付けは行わない。（市長スピーチ後における鈴木特別顧問による補足説明）現在、市・国・府の間で検討している案はあくまで地元の議論に供するためのたたき台であり、議論は地域主体で 1 から行う。

- ・特区構想はあくまで人口流入を目指す改革であって、今いる人々を排除するようなことは絶対に行わない。(市長スピーチ後における鈴木特別顧問による補足説明：センター建て替えや特区推進に伴って、一定の再開発が必要となるが、それは他地域の再開発のように、クリアランスや排除につながるようなものにしない。市長が地元の議論を最優先すると明言したことは、地域の望まないような形で再開発が進むようなことはないことを担保するものである。)

#### 記者会見

- ・あいりん総合センターおよびその周辺の問題は、任期中に道筋をつける。

#### ・センターには色々な機能がある、どこの部分を縮小するのか

基本的に機能は必要。規模がいらぬ。あつせん、就労あつせんは重要。よせば機能・居場所機能としても活用されているわけですから。それをすべていらぬということではない。高度成長期に時に作った施設の規模とは違ふでしよということ。

#### 日雇労働市場を残せば、しんどい方々があいりん地域に流入してこられるがそれを大阪市として受け入れるのか

サポートはしっかりするがルールは守ってもらう。ただし、高度成長期を支えてくれた人々を排除はしない、クリアランスは行わない。